

株式会社アイ・エス・ビー

2016年12月期 第2四半期決算説明会

2016年8月12日
証券コード:9702

1. 会社概要

2. 2016年12月期第2四半期 決算説明

3. 連結分野別状況

4. 経営施策について

1. 会社概要

2. 2016年12月期第2四半期 決算説明

3. 連結分野別状況

4. 経営施策について

1-1. 会社概要



社名・商号

株式会社 アイ・エス・ビー
I S B CORPORATION

URL

<http://www.isb.co.jp>

設立

1970年6月4日

代表者

代表取締役社長 若尾 逸雄

事業所

本社・新横浜事業所・三島事業所・甲府事業所・我孫子事業所・
大阪事業所・五反田事業所・名古屋事業所・データセンター

決算期

12月

従業員数

連結 1,171名（2015年12月末比26名減）

資本金

17億752万円

発行済株式総数

5,105,800株（100株単位）

上場市場/コード

東証1部 / 9702

主幹事証券

大和証券株式会社

上記情報は全て、2016年6月30日現在

THE ISB WAY

MISSION

私たちは、先見的で卓越した技術力を核とし、チーム ISB の知恵を結集させて、顧客や社会のこれからの役立つ解決策を提案することを、組織の使命とします。

VISION

よりよい ICT 社会を実現するチーム ISB

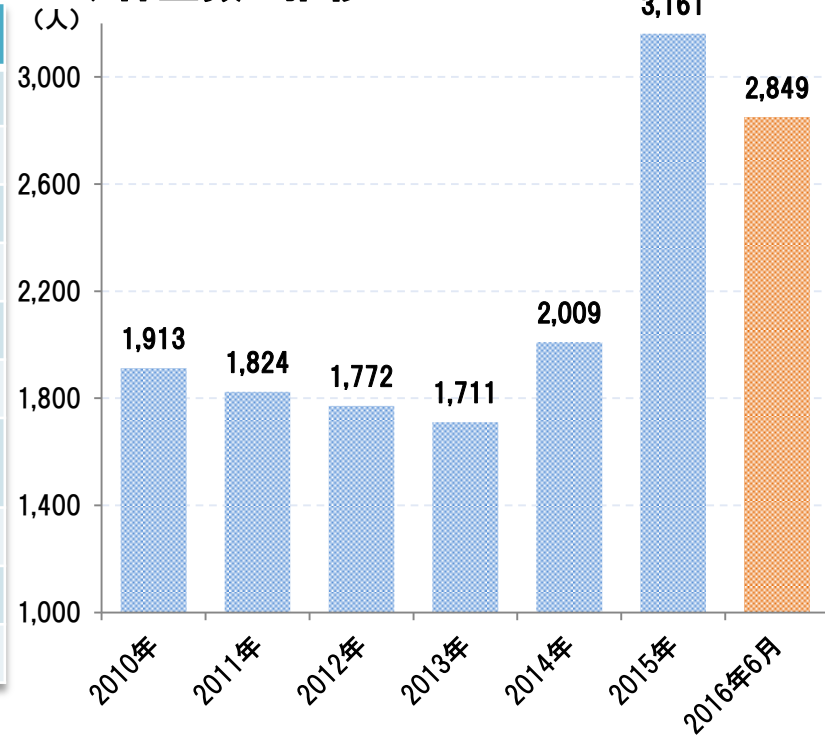
1. 卓越した技術とサービスを提供するチーム ISB
2. 国際競争を勝ち抜くチーム ISB
3. 次世代に通用する人材を育成するチーム ISB

1-3. 株式の状況

◆大株主情報 (2016年6月末)

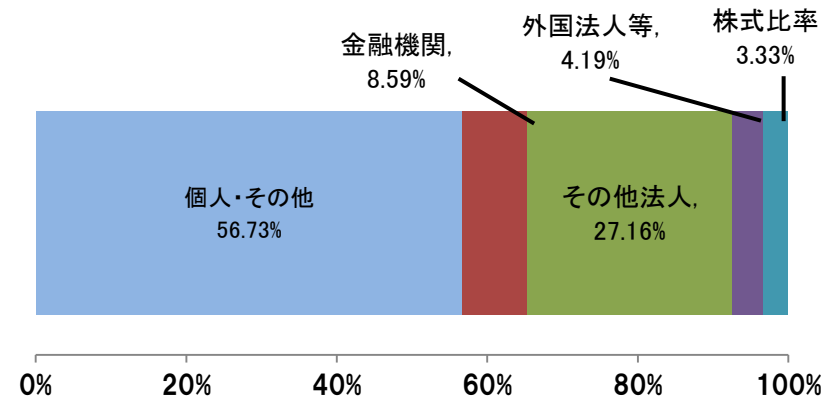
株主名	持株数(株)	持株比率
有限会社若尾商事	1,200,700	23.51%
アイ・エス・ビー従業員持株会	323,000	6.32%
若尾 一史	135,500	2.65%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	132,500	2.59%
稲葉 正作	132,200	2.58%
株式会社第一情報システムズ	90,000	1.76%
ROYAL BANK OF CANADA (CHANNEL ISLANDS) LIMITED-REGISTERED CUSTODY	80,000	1.56%
株式会社KSK	61,600	1.20%
喜多 利之	50,400	0.98%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	46,300	0.90%

◆株主数の推移



◆所有者別株式分布状況 (2016年6月末)

	株主数	株式数	株式数分布比率
個人・その他	2,736	2,896,735	56.73%
金融機関	21	438,400	8.59%
その他法人	35	1,386,650	27.16%
自己株式	1	6	0.00%
外国法人等	28	214,000	4.19%
金融商品取引業者	28	170,009	3.33%



1-4. 監査等委員会設置会社への移行について

2016年3月 株主総会にて
監査役会設置会社から監査等委員会設置会社
へ移行しました。

監査役会設置会社

取締役会

若尾 逸雄
柳沢 一紀
川崎 工三
竹田 陽一

監査役会

監査役

太田 道也
細上 諭
橘 薫
藤ノ木 清

監査等委員会設置会社

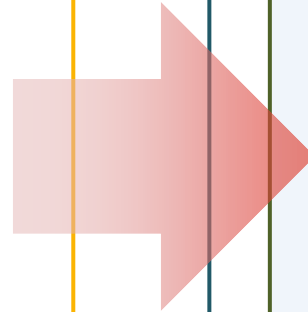
取締役会

若尾 逸雄
柳沢 一紀
川崎 工三
竹田 陽一

監査等委員会

監査等委員(取締役)

若尾 一史
細上 諭
橘 薫
藤ノ木 清



1. 会社概要

2. 2016年12月期

第2四半期決算説明

3. 連結分野別状況

4. 経営施策について

2-1. 2016年12月期第2四半期 連結損益計算書

(単位:百万円)	2015年12月期2Q累計		2016年12月期2Q累計		前年比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	6,127	100.0%	6,630	100.0%	503	108.2%
売上原価	5,396	88.1%	5,717	86.2%	320	105.9%
売上総利益	731	11.9%	913	13.8%	182	125.0%
販売管理費	639	10.4%	741	11.2%	101	115.9%
営業利益	91	1.5%	172	2.6%	81	188.8%
経常利益	76	1.2%	193	2.9%	116	252.8%
特別損益	2	0.0%	△2	0.0%	△4	—
法人税等合計	△51	△0.8%	△78	△1.2%	△26	152.0%
当期純利益	26	0.4%	112	1.7%	85	417.4%

◆売上(連結)

「組込み」分野の増加と、昨年7月にインフィックス社を子会社化したことが、前年同期比増加の主要因。工事進行基準適用による影響額や、仕掛残高は概ね前年同期並み。

◆利益(連結)

主にプロジェクト管理強化による収益性の改善が寄与、売上総利益は1.9ポイント向上し、のれん償却額増加などによる販売管理費率0.8ポイントの悪化を吸収し、営業利益率1.1ポイント向上となった。経常利益は前年同期に株式公開費用があったことから前年同期比大幅増加となった。

◆工事進行適用による影響額

	2015年2Q	2016年2Q
売上高	208百万円	147百万円
粗利益	28百万円	22百万円

◆期末仕掛残高比較

2015年6月末	2016年6月末	前年比
234百万円	278百万円	44百万円

2-2. 2016年12月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位:百万円)	2015年 12月期	2016年 12月期 2Q	前年比	(単位:百万円)	2015年 12月期	2016年 12月期 2Q	前年比
流動資産合計	5,745	5,750	5	流動負債合計	1,594	1,622	27
現金・預金	2,683	3,054	371	支払手形及び買掛金	735	720	△14
受取手形及び売掛金	2,440	2,218	△221	短期借入金	70	70	0
有価証券	100	0	△100	未払消費税等	150	139	△11
仕掛品	282	278	△4	固定負債合計	227	240	12
固定資産合計	1,642	1,572	△70	純資産合計	5,565	5,460	△105
有形固定資産	439	453	13	株主資本合計	5,523	5,456	△66
無形固定資産	595	560	△35	利益剰余金	1,503	1,437	△66
投資その他の資産	607	558	△48	負債純資産合計	7,388	7,322	△65
資産合計	7,388	7,322	△65				

◆主要ポイント

- ①資産は、流動資産にて「売掛金と有価証券の減少」分程度「現預金が増加」、かつ固定資産に大きな変動がなかったことから前期末比ほぼ変わらない残高となった。
- ②純資産の減少→配当金支払額を上期純利益額が下回っている分、利益剰余金が減少。また、海外子会社の円換算資本金の減少や所有株式の評価損が影響。
- ③自己資本比率は前期末75.3%から今期末74.6%へ、概ね変わらず財務健全性確保。

単位:百万円	2015年12月期 2Q	2016年12月期 2Q	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	416	503	86
投資活動によるキャッシュ・フロー	△111	53	164
フリーキャッシュ・フロー	304	556	251
財務活動によるキャッシュ・フロー	263	△177	△441
現金及び現金同等物の増減額	567	371	△195
現金及び現金同等物の期首残高	2,223	2,683	459
現金及び現金同等物の期末残高	2,791	3,054	263

◆ 主要ポイント

【営業活動によるCF】

税引前当期純利益	190百万円
減価償却費	82百万円
受注損引当金増減額	▲0百万円
売上債権の増減額	286百万円
仕入債務の増減額	▲11百万円
たな卸資産の増減額	16百万円
未払消費税等増減額	▲11百万円

【投資活動によるCF】

有形固定資産取得支出	▲5百万円
無形固定資産取得支出	▲52百万円
投資有価証券償還収入	100百万円

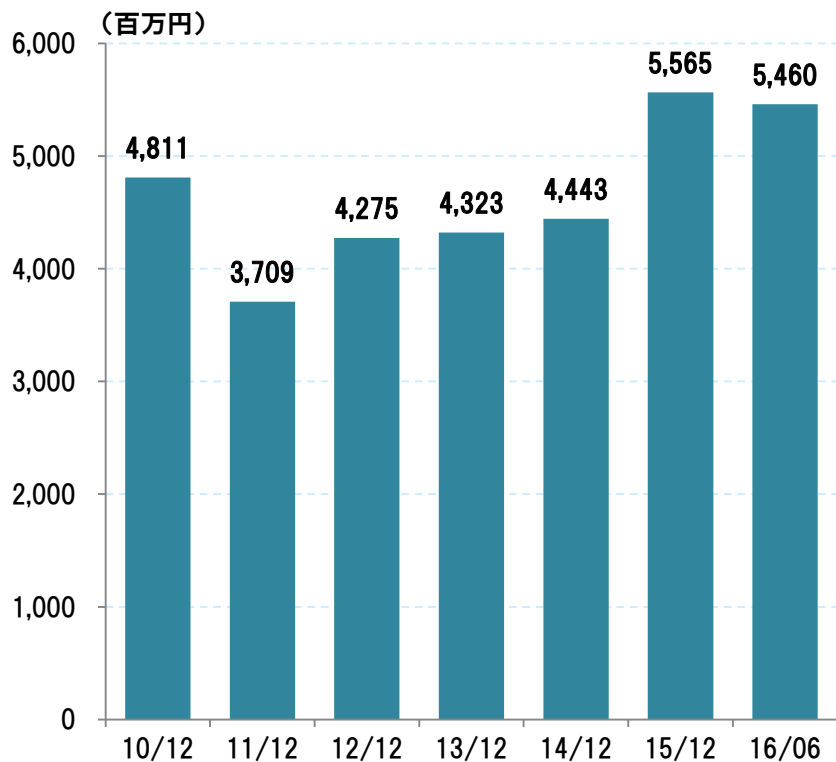
【財務活動によるCF】

配当金の支払額	▲177百万円

株主価値・企業価値の最大化に向けて

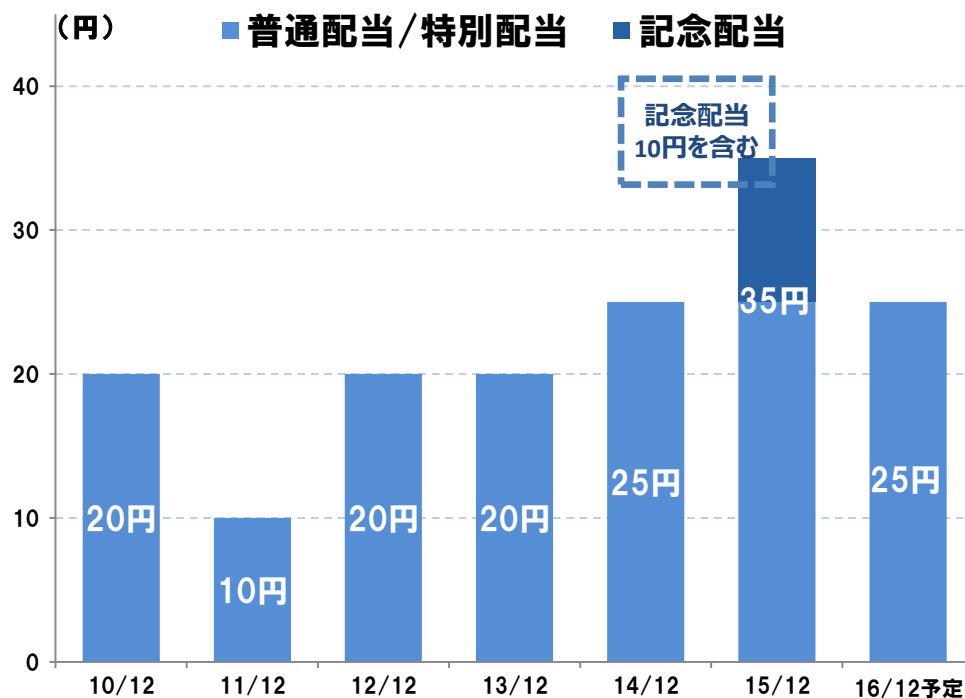
- 事業拡大・利益増加による時価総額増大を目指す。
- 内部留保を勘案の上、可能な限り安定した配当を継続していく方針。
(配当性向は30%を目標に)

◆ 純資産の推移



◆ 一株あたり年間配当金推移

(普通配当・特別配当・記念配当を含む)



1. 会社概要

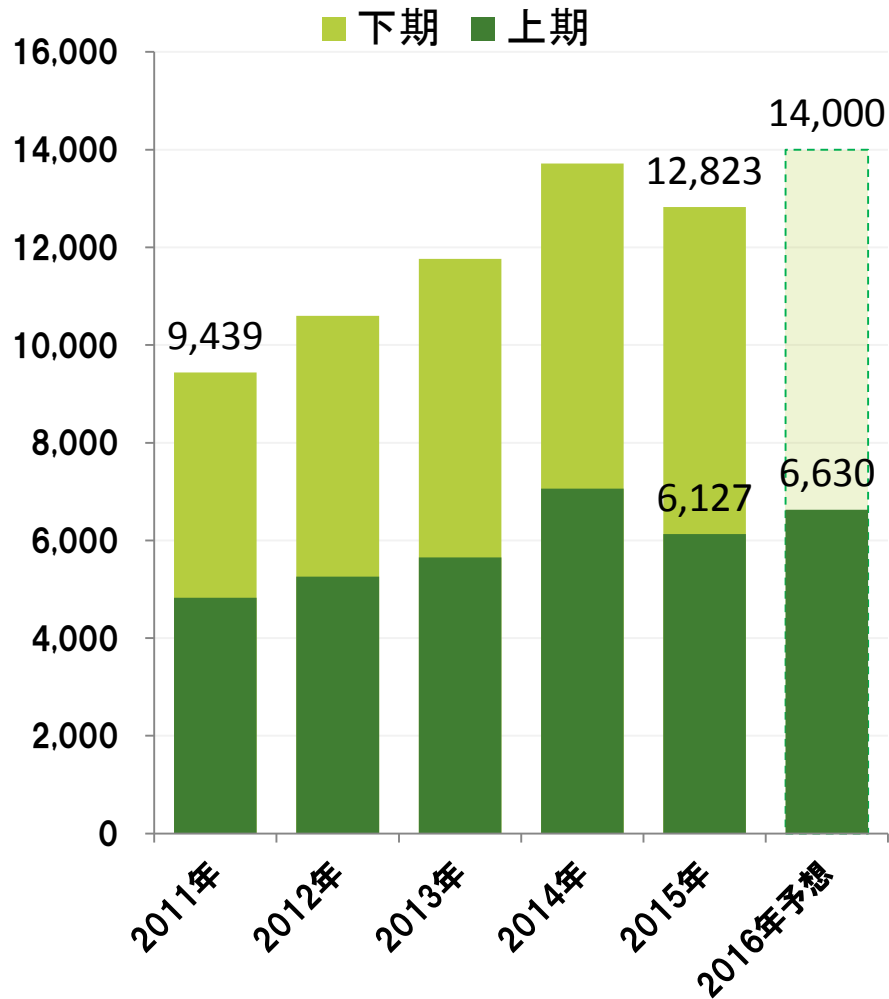
2. 2016年12月期第2四半期 決算説明

3. 連結分野別状況

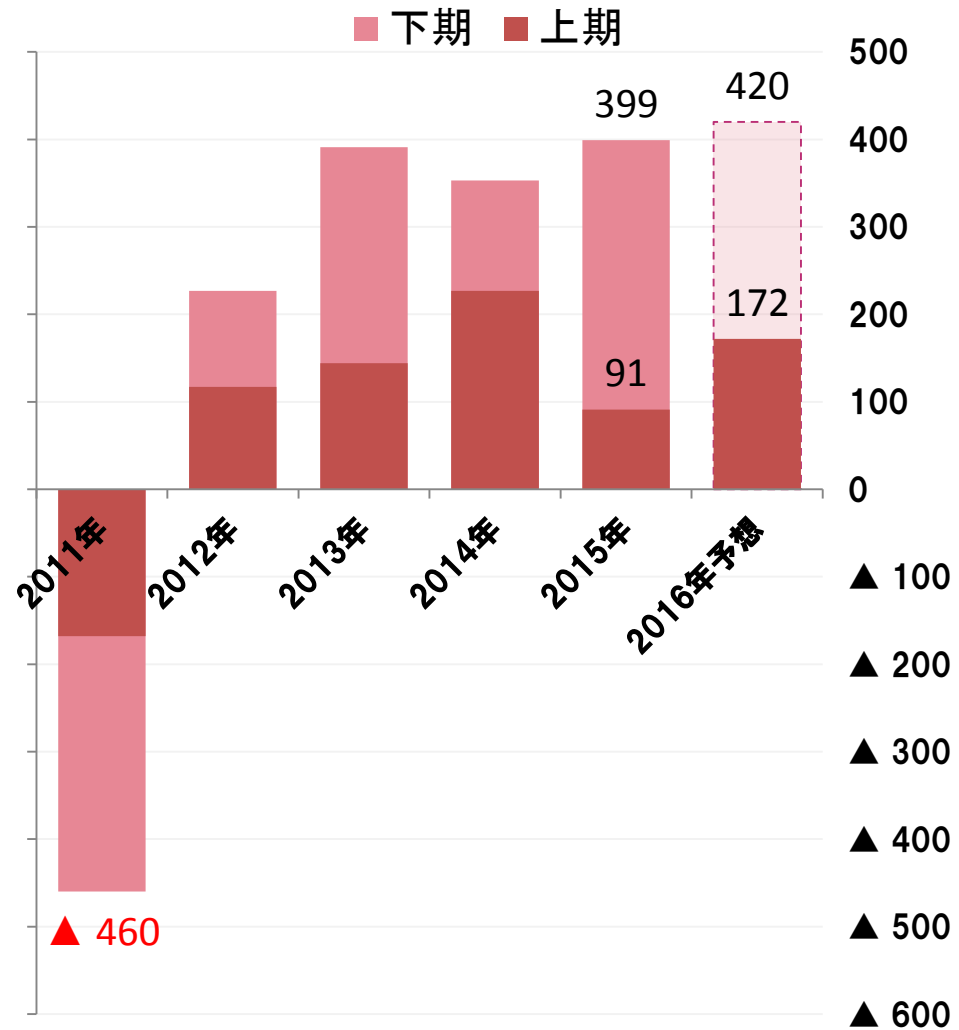
4. 経営施策について

3-1. 連結売上高と同営業利益の推移

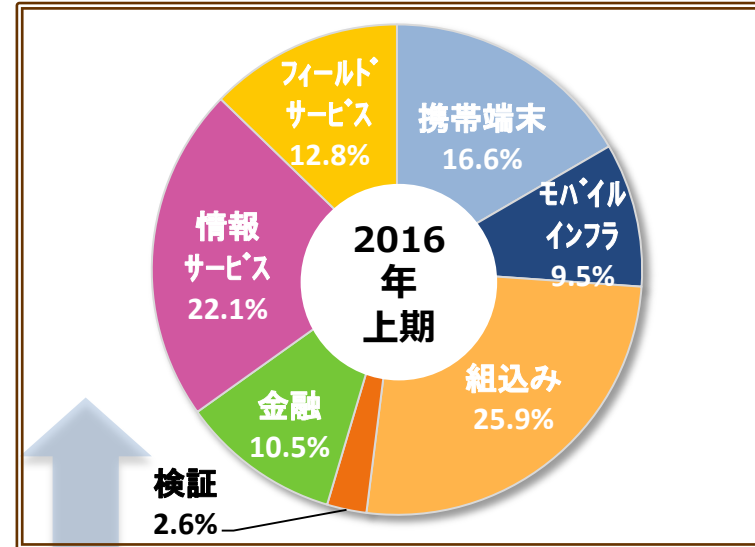
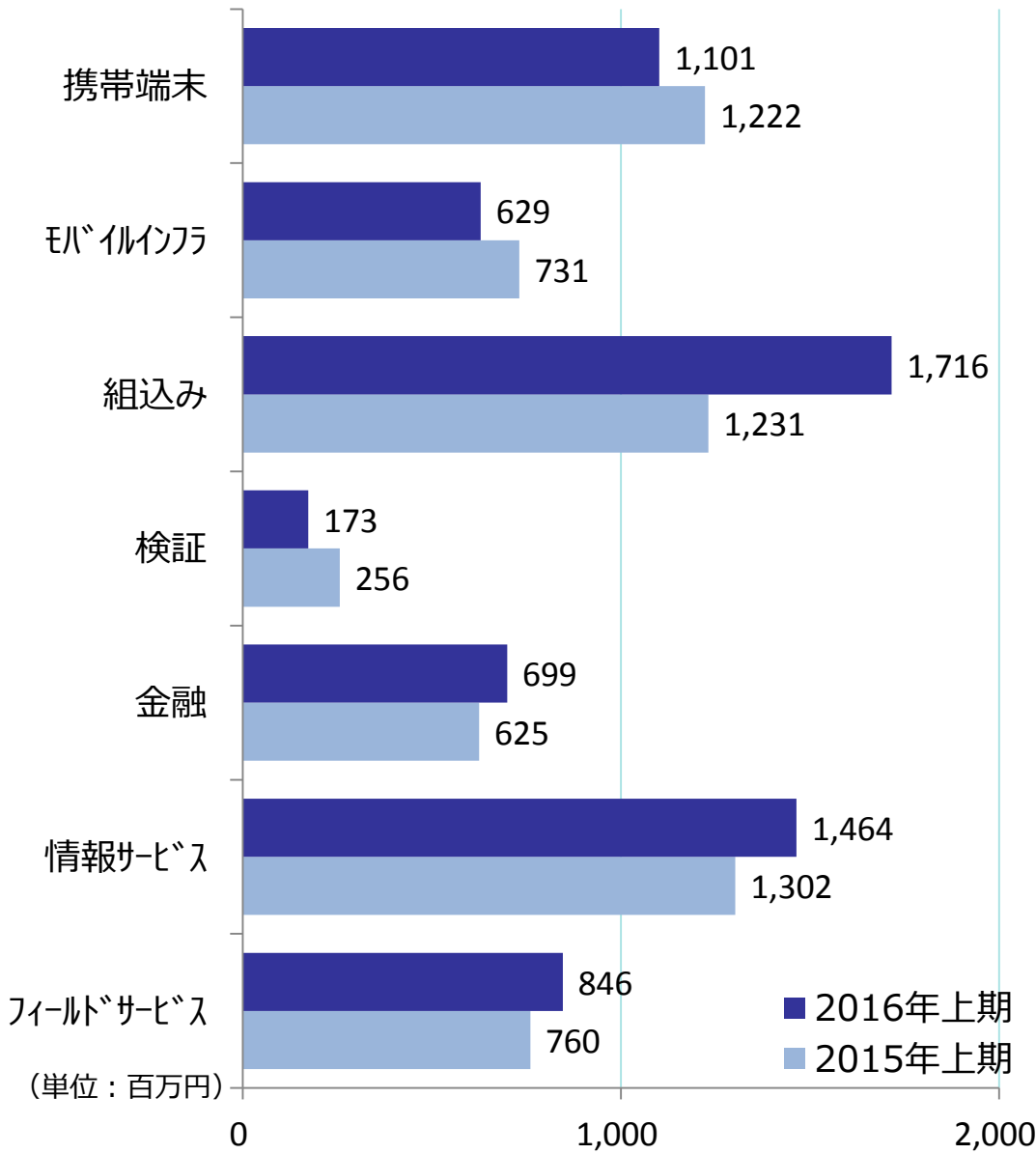
連結売上高(百万円)



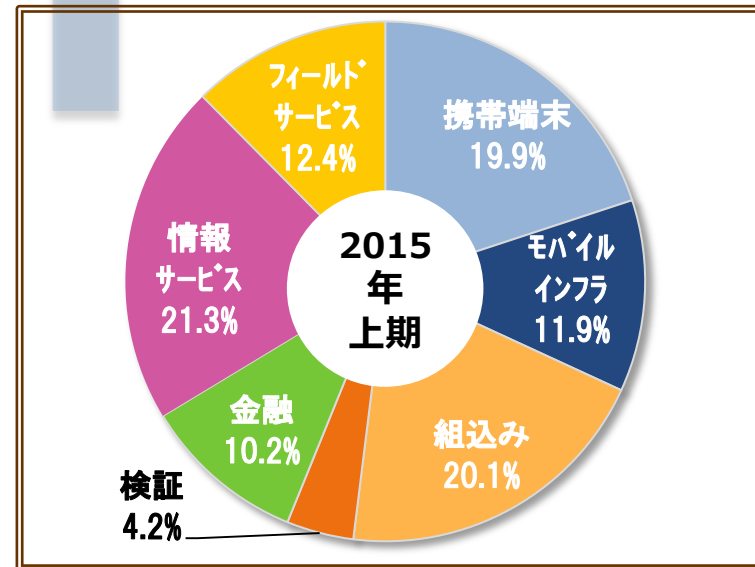
連結営業利益(百万円)



3-2. 連結分野別売上高 & 構成比 前期比較



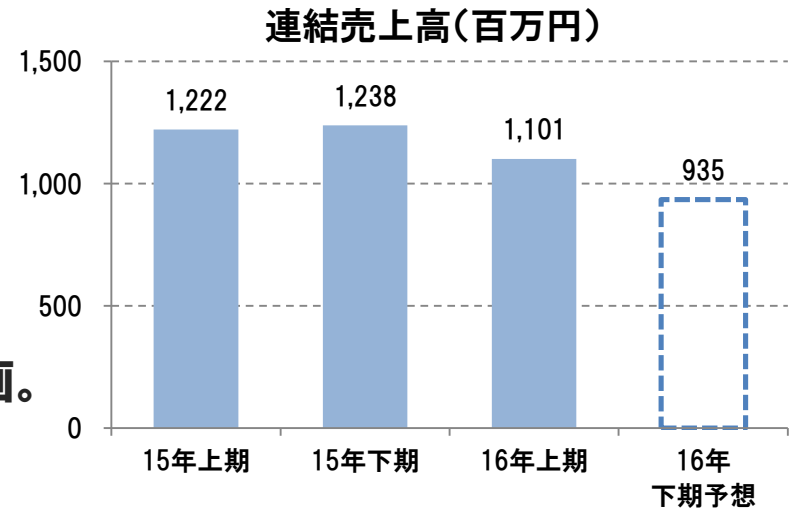
「組込み」分野にて、
有望業種からの受注増を図ります。



携帯端末

2016年上期 ▶ 主力メーカーのスマートフォン開発削減により大きく減速となり、受注量が減少。

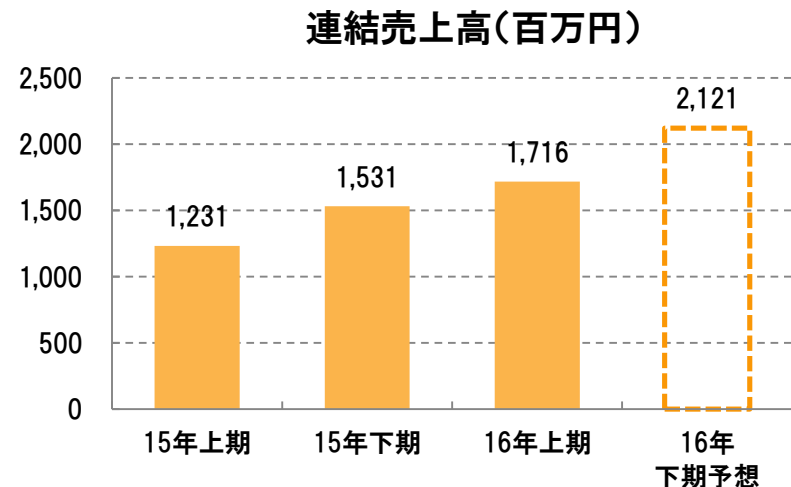
2016年下期 ▶ 引き続き、主力メーカーからのスマートフォン開発削減により、受注減を計画。



組込み

2016年上期 ▶ 車載関連業務の堅調な受注とエレクトロニクスメーカーからの受注や、Qt開発関連業務の受注が増加。

2016年下期 ▶ 下期も車載業務の受注が引き続き堅調なことに加え、Qt開発案件の受注増加を予想。



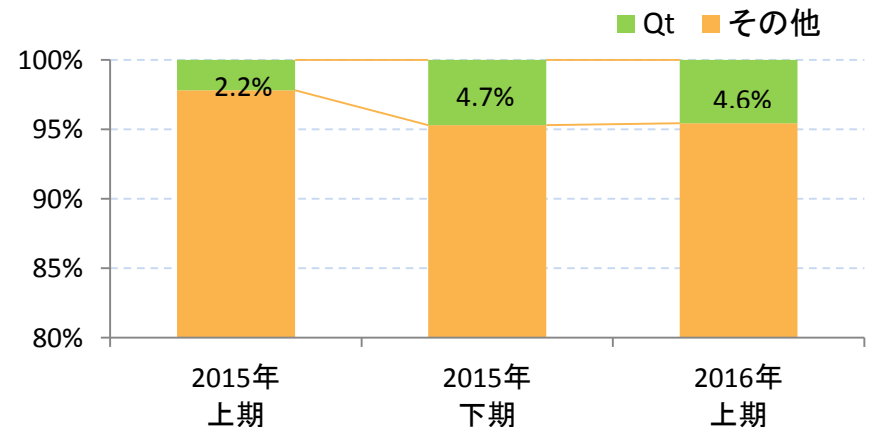
Qtは約20年の歴史がある世界有数のアプリケーション開発キットです。
弊社は2008年からパートナー契約をして業界に向けたQtの推進を行ってきました。



- ✓ Embedded Linux採用が進むにつれて、Qtの採用事例が加速度的に増加
- ✓ ここ最近の急激な成長期を経て、今後Qtは緩やかな成長を維持する見込み
- ✓ 車載やデジタル家電、組込装置、スマートフォン市場で、さらに活性化



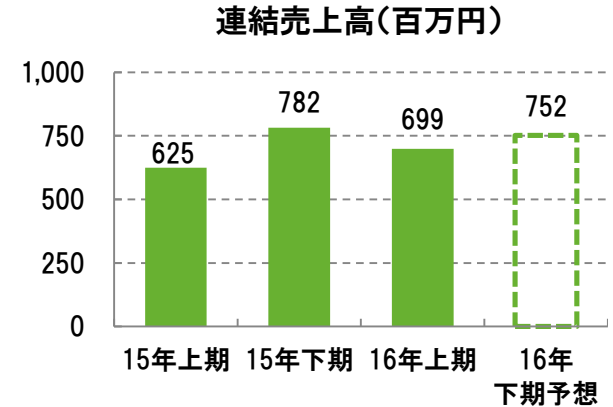
組込み分野におけるQt開発案件売上比率



金融

2016年上期 ▶ 主に証券関連業務の制度改正に伴う業務と生損保関連業務の縮小し、受注が減少。

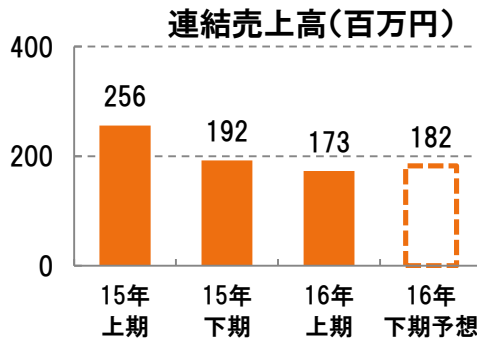
2016年下期 ▶ 証券関連業務のシステム刷新に伴う受注と銀行関連業務でのインフィックス社とのシナジーで受注拡大を狙う。



検証

2016年上期 ▶ 携帯端末分野での検証業務の縮小に伴い売上高が減少。

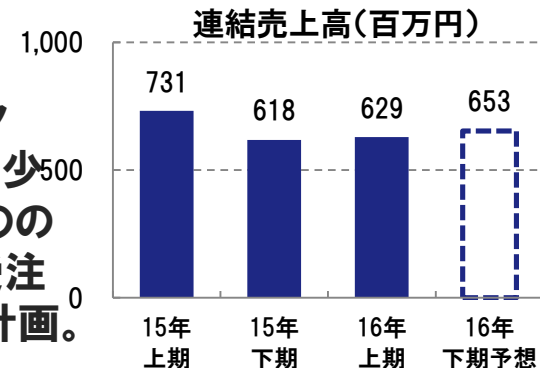
2016年下期 ▶ 上期と同様に携帯端末分野の縮小が予想されていることから、上期並みを計画。



モバイルインフラ

2016年上期 ▶ ネットワーク関連業務の受注の減少があったものの、研究開発案件の売上が前期より若干増加したため前期並みとなった。

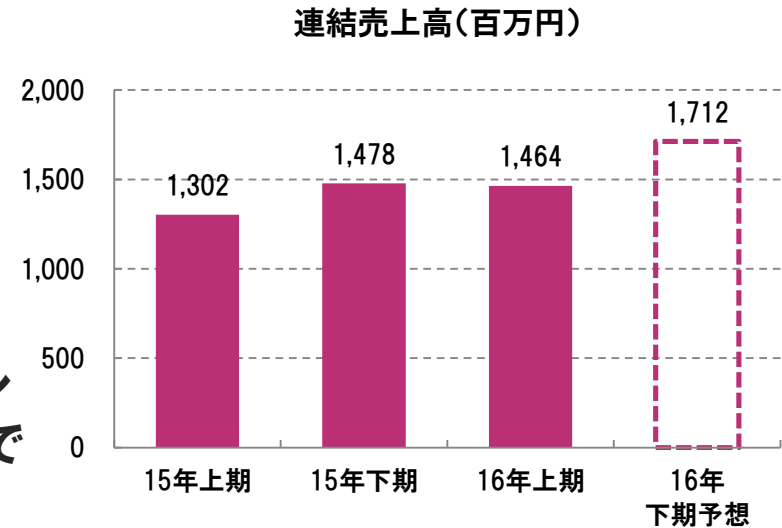
2016年下期 ▶ 引き続き、ネットワーク関連業務の受注の減少は見込んでいるものの基地局関連業務の受注を確保し、今期並み計画。



情報サービス

2016年上期 ▶ 官庁・自治体関連業務はマイナンバー関連業務の受注により売上が増加した一方で、民需関連業務は大手メーカーからの受注の減少に伴い売上は前期並みとなった。

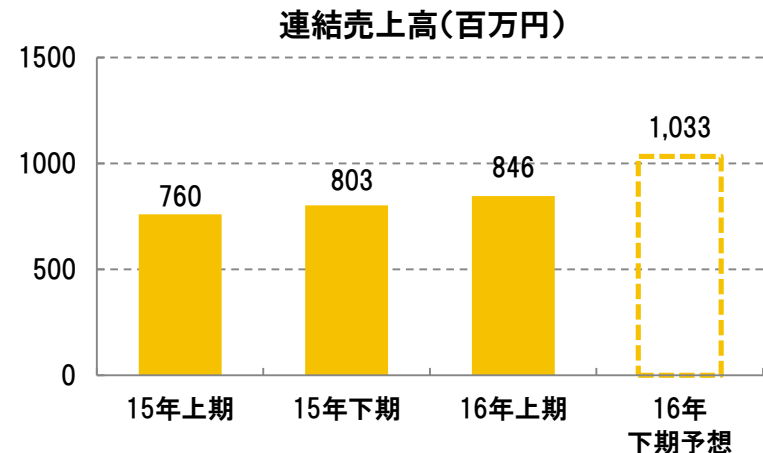
2016年下期 ▶ 官庁・自治体関連業務はインフィックス社との協業や、札幌システムサイエンス社を活用したニアショア案件の受注、民需関連での大型案件の受注を計画。



フィールドサービス

2016年上期 ▶ 運用支援関連業務から、サーバー構築系業務への受注拡大により、前期並みを確保。

2016年下期 ▶ サーバー構築業務へのシフトを加速し、受注増を計画。

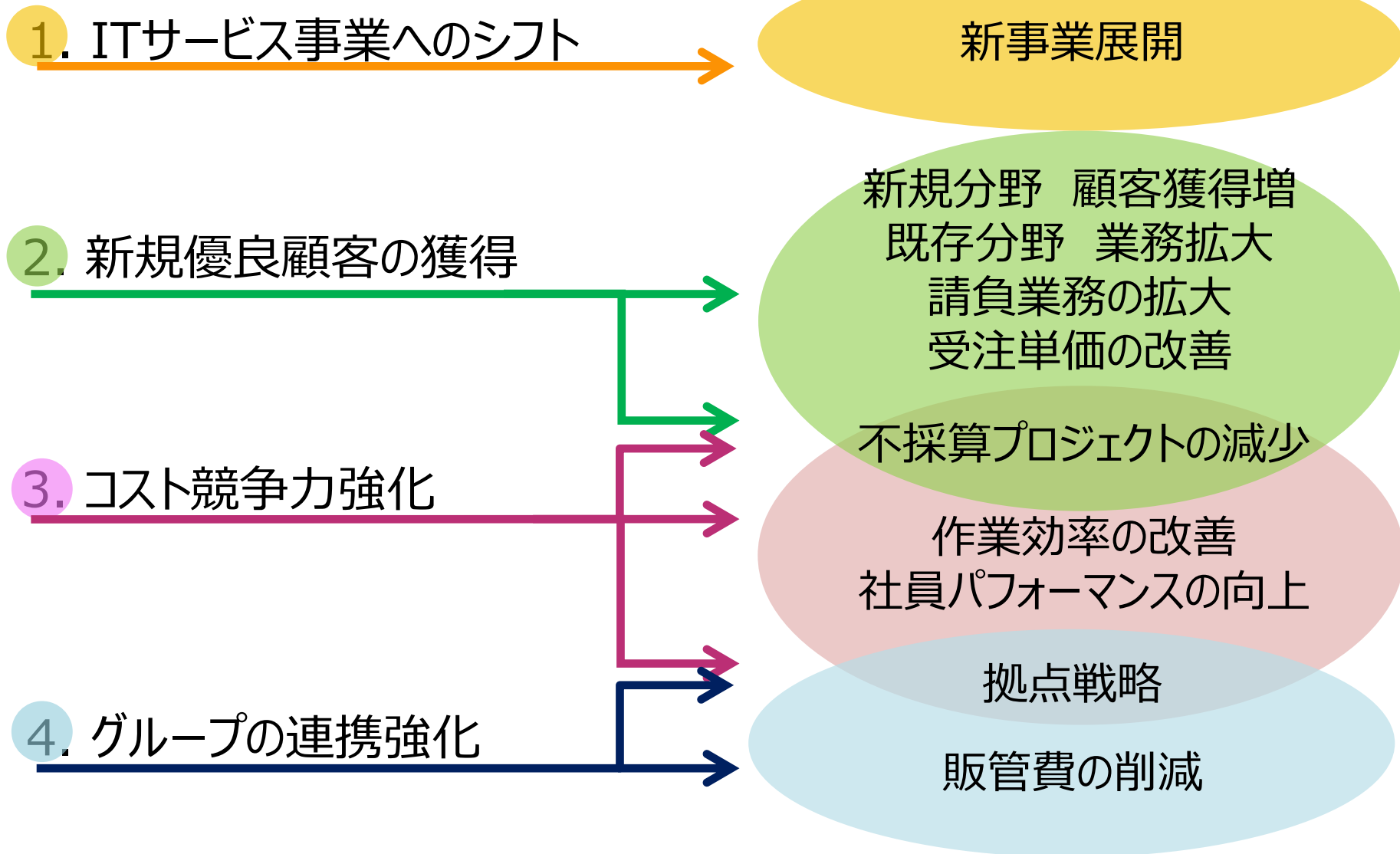


1. 会社概要

2. 2016年12月期第2四半期 決算説明

3. 連結分野別状況

4. 経営施策について



新事業

公共機関向け
ブロードバンド機器

センサーデバイス向け
無線プロトコル

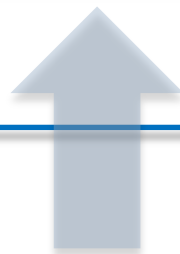
M2M
クラウドプラットフォーム

モバイル
デバイスマネージメント

訪問看護向け
モバイルサービス

医療
ITソリューション

医療機関向け
レセプト解析サービス

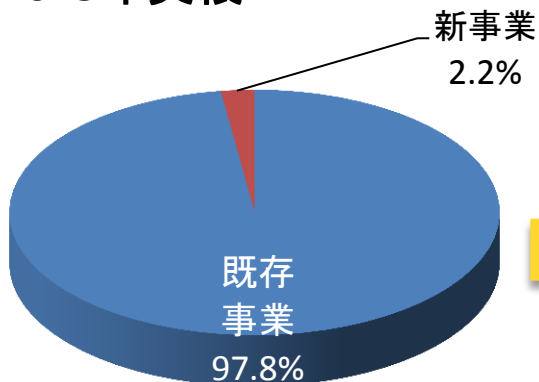


既存事業

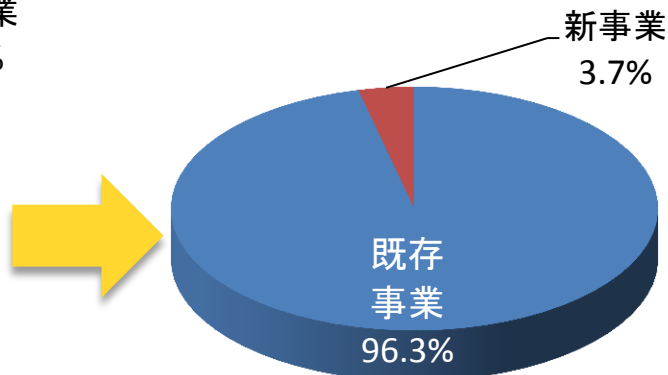
受託開発で培った技術・ノウハウの活用

■新事業と既存事業の売上計画と実績

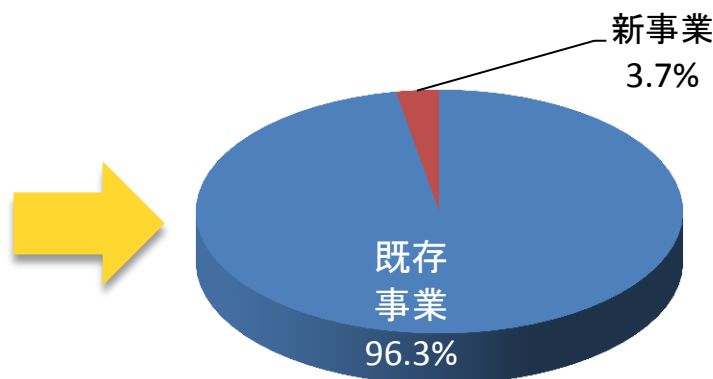
2015年実績



2016年通期計画



2016年上期実績



次期は開発投資完遂の計画。
並行して収益獲得フェーズへ。

計画通りに推移中。
Wi-SUNエンジニア関連業務の売上やMDM売上が好調。

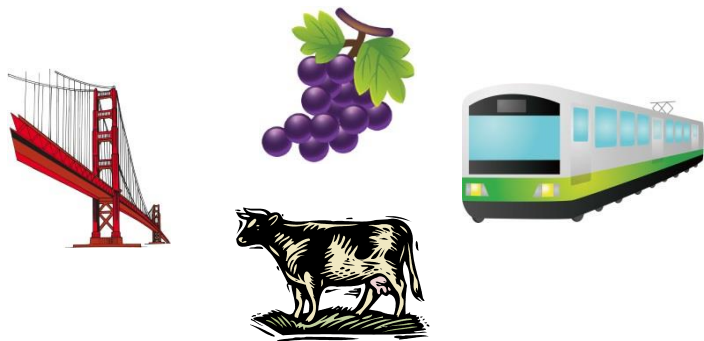
センサネットワークにおけるWi-SUN無線プロトコルスタックをベースにデバイス開発エンジニアリングの提供から無線技術を活かしたネットワークサービス、データセンターを活用したM2Mクラウドサービス及びアプリケーションサービスまでをトータルで提供。

News !

- 「IoTトータルコーディネート」サービスの提供開始
- 新たに接続可能なデバイスが増えました。
 - ・ コンピューテックス様 (CM-3G)

開発事例

- 畜産: 生体センシング
- 橋梁: ヘルスモニタリング
- 農業: ワイン向けブドウ生産管理
- 交通: 鉄道向けモニタリングシステム

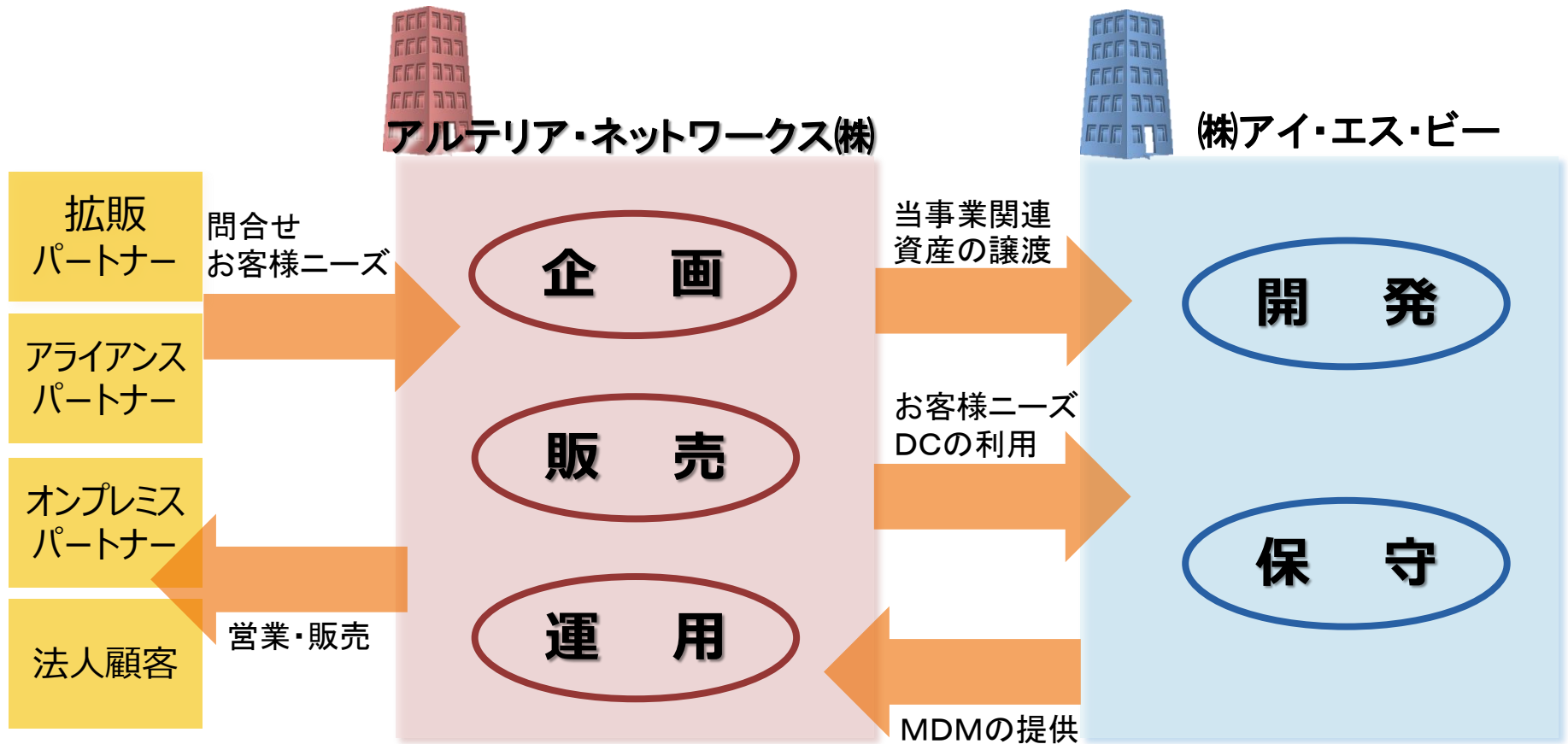


ISBが提供する技術レイヤ



4-2-3. 新事業 (MDM)

MDMは「端末管理」や「スマートデバイス活用」を促進するサービスです。
「全ての人に安心と安全なモバイルライフを提供する」をコンセプトに
アルテリア・ネットワークス社が単独で提供していたMDM事業を共同で展開しております。



株式会社コンダクトが提供する介護事業者向けサービスのクラウド版「Flowers NEXT on Cloud」のサービスの一つである訪問看護システム「コスモス」と連携し、モバイル端末（タブレット）から利用者様の訪問看護記録データの参照、登録を行うWebアプリケーション。

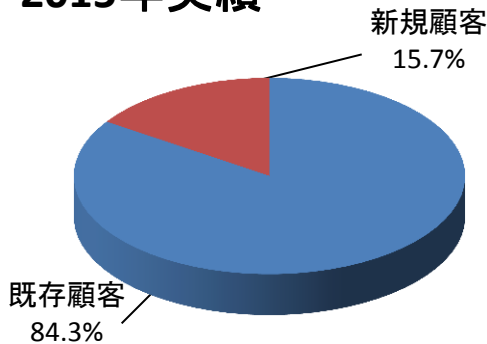
- ・2013年4月サービスイン。
- ・2016年7月現在、23事業所（118ライセンス）で稼働中。
- ・今後、オンプレミス版、スマホ版の導入を予定、ラインアップの拡充を図る。



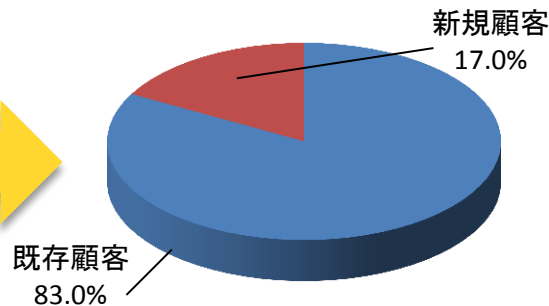
有望な産業分野への進出と優良顧客の獲得

■新規取引先 売上高計画と実績

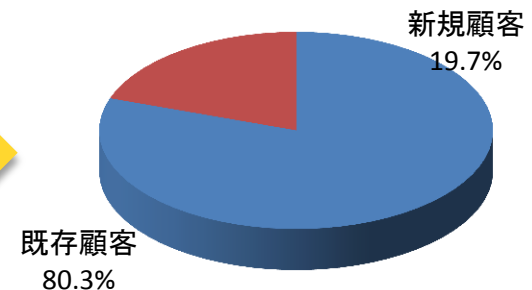
2015年実績



2016年計画



2016年上期実績



円グラフ中の新規顧客比率は、2013年末の売上高を全て既存顧客とし、2014年以降獲得した新規顧客売上高の比率を表しています。

今期の新規顧客獲得は計画以上の成果。
2014年、2015年は新規顧客増加注力が結実。
2016年新規顧客獲得自体より、直近2年間で
獲得した顧客のうち、より有望な顧客群で業務拡大を推進。

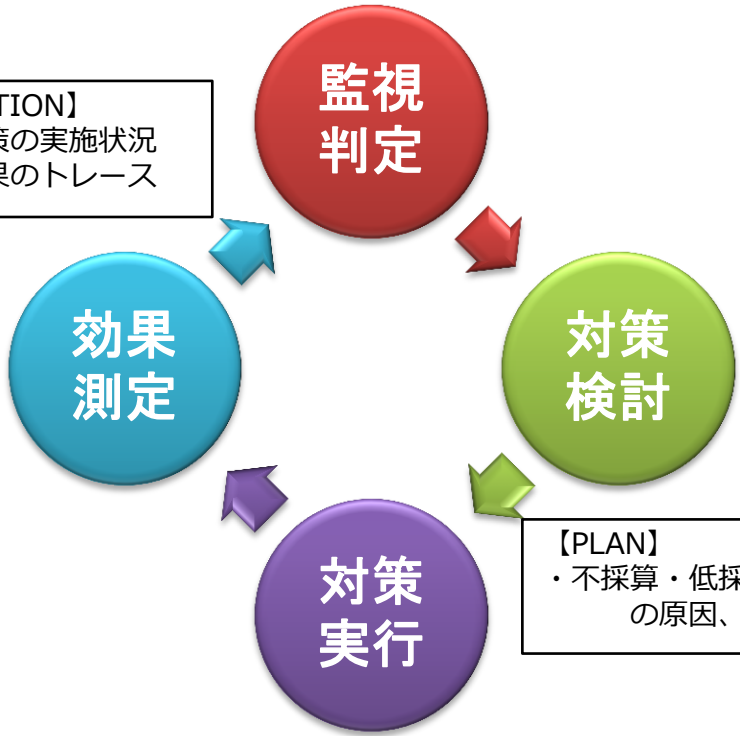
4-4. コスト競争力強化（不採算プロジェクトの減少）

プロジェクト管理強化 ⇒
週単位での作業予定時間と実績の管理

前年同期比（上期）計画 20%削減に対し、
34%削減!

【CHECK】
・受注判定会の実施、
・不採算・低採算プロジェクト
の発生を監視

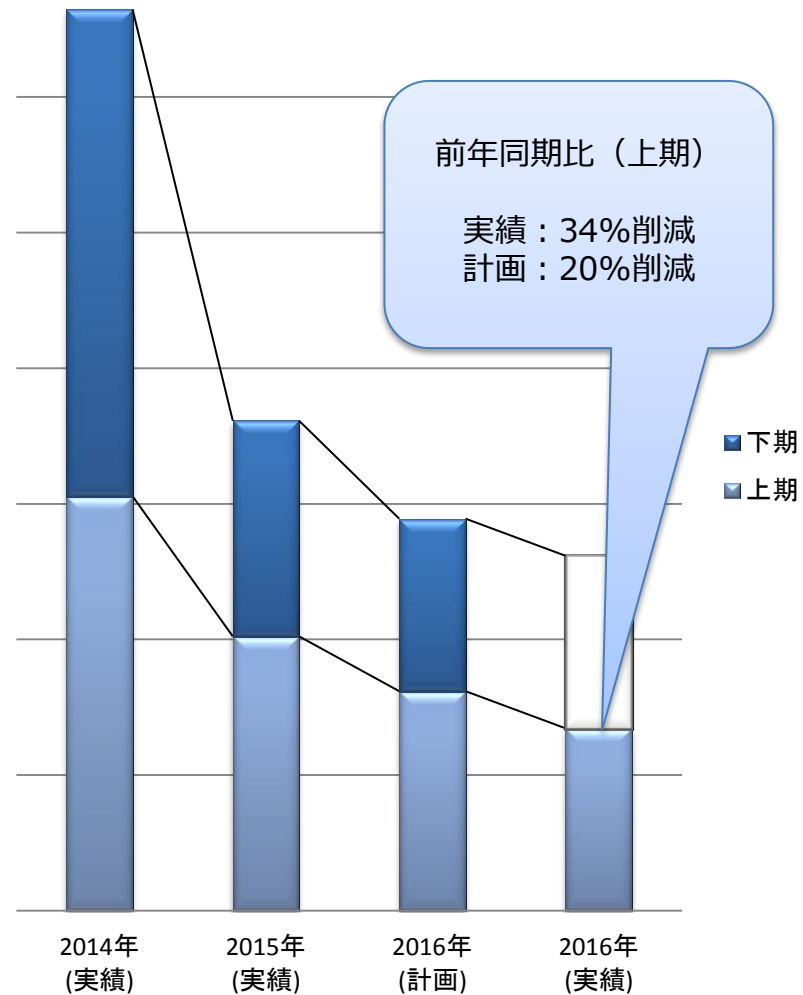
【ACTION】
・対策の実施状況
・効果のトレース



【DO】
・不採算・低採算プロジェクト
の削減対策の実行

【PLAN】
・不採算・低採算プロジェクト
の原因、削減対策の検討

年度別不採算プロジェクト累計推移



4-5-1. グループの連携強化(連結子会社紹介)

(2016年6月現在)



- ▶ **株式会社エス・エム・シー** : 得意分野はフィールドサービス。今後は開発業務や、自社製品販売も。
- ▶ **ISB VIETNAM COMPANY LIMITED** : 海外戦略の中心。
- ▶ **株式会社アイエスビー東北** : 創立5周年。産学官共同開発など、地場に密着した事業展開。
- ▶ **ノックスデータ株式会社** : モバイルインフラ分野を中心に、営業展開や業務の共有化などで、シナジー効果を発揮。
- ▶ **株式会社札幌システムサイエンス** : 得意分野は公共系業務。情報サービス分野の売上に大きく寄与。
- ▶ **株式会社インフィックス** : 2015年7月から子会社化。得意分野は金融系・公共系業務

オフショア

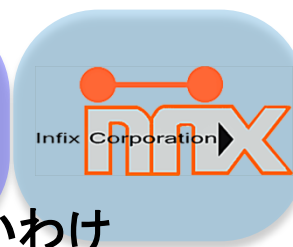


ニアショア



ITの人材不足をコスト面・人材面でも対応できる体制

コスト競争力の強化
技術／ノウハウの共有
得意分野の連携拡大



プロジェクトの要件に合わせて使いわけ

首都圏

	2015年12月期 実績	2016年12月期 予想	増減率
売上高	12,823 百万円	14,000 百万円	9.2 %
営業利益	399 百万円	420 百万円	5.2 %
経常利益	427 百万円	435 百万円	1.8 %
当期利益	180 百万円	280 百万円	54.7 %
配当金 配当性向 純資産配当率	35 円 98.7 % 3.2 %	25 円 45.6 % — %	



本資料は、2016年6月期決算の業績に関する情報の提供と、当社に対するご理解をより深めて頂くことを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2016年6月末時点の状況において作成しております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

<連絡先>

Email: ir-info@isb.co.jp

URL : <http://www.isb.co.jp/>

株式会社 **アイ・エス・ビー**